

大阪府立香里丘高等学校 平成 27 年度第 3 回学校協議会記録

日 時 平成 28 年 2 月 2 日 (火) 15:00～17:00

場 所 香里丘高校会議室

1. 校長挨拶

2. 委員長挨拶

3. 協議 (司会：和佐委員長)

1) 平成 27 年度学校教育自己診断結果について

① 生徒・保護者・教職員のアンケート結果の報告

- ・本校教育全体について
- ・授業・学習指導・進路指導について
- ・学習態度・受験勉強について
- ・学校生活について
- ・満足度・その他

● 質疑応答 (委：委員からの発言 学：学校側の発言 校：校長の発言)

学：学校教育全体についての生徒、保護者の評価は高い。設問 1 の「本校で学ぶことにより基礎的な学力と社会生活を営む上で必要な能力を身につけることができる」と 設問 7 の「本校は学習・部活動・行事等のバランスがとれた教育活動を行っている」のところでも評価が高く、保護者も同様の傾向を示している。

委：生徒の学校教育全体については概ね満足。しかし自分自身に自信がない。何か矛盾しているように思えるがなぜか。

委：学習態度・受験勉強についての設問 21 の「勉強面で自信がなく将来に不安を抱えている」が悪くなっているが、設問 38 の「私は香里丘高校に行くのが楽しい」が 82% になっている。これも矛盾しているのでは？ 悪くなってくると学校に来たくないということになってくるのではないか？

校：学校の行事などは楽しい、勉強はしているが、結果が出ない。
学校に行事や部活動・友人を求めていることも考えられる。

学：生徒自身の学習に対する目標設定が高いことも考えられる。いい意味で謙虚。後ろ向きではない。

委：自学自習率が問題になっている。キャリア教育、自分の進路先実現への取り組みは何をしているか？

学：夏休みの大学見学会では近大・龍谷など 4 校 + 自分で 2 校見学するよう指導している。また、大学や専門学校等外部から講師を招聘して説明会などのキャリアガイダンスを行っている。

学：定期考査が終わった時に自分の成績を分析し目標点などを知る、目標評定獲得まで何点取らなければいけないのかを知る機会を設けている。

学：学習オリエンテーションの実施、校内模試・校外模試の受験も勧めている。

校：進路指導については香里丘高校として 3 年間を見据えたキャリア教育を、学年主導型から進路指導部主導型に変え、その上で学年の取り組み・色を出す形になってきている。

委：保護者の【2】授業・学習指導・進路指導についてが全般的に低くなっている。

校：回答率が 50% 未満ということもあり、課題意識の高い方々の意見ということも考えられるのではないか。

委：家庭学習への取り組みも低い。

委：保護者設問 23 の「香里丘高校は授業参観や懇談の機会をよく設けている」は、昨年比較で - 10 ポイントである。

学：設問項目については毎年、教育委員会から指示がある。今年については、「授業参観や学校行事に参加しているか」の問い方に変わっている。懇談の参加率は高いが授業参観や学校行事は低い傾向にある。

委：学校診断自己診断の質問としてはおかしいのではないか。

委：こういった意見が出ているので、次回からは検討したほうがいい。

2) 平成 27 年度学校評価および今年度の取り組み報告

① 第一志望の進路実現

② より良い豊かな人間関係づくりができる学校文化の創出

③ 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

校：学校評価および今年度の取組み報告と分析。

① 「第一志望の進路実現」において、できた取り組みとして、カリキュラムの改定、アクティブスポーツコースの新設。授業力向上をめざし互見授業の実施、アクティブラーニングへの取り組みを進めている。プロジェクトチーム（PT）を作ってフットワークを軽く組織で対応できている。模試の受験者が 55% 増加している。センターの受験者も昨年度約 80 人から今年度約 120 人と 40 人増加している。図書館の利用が課題である。

② 「より良い豊かな人間関係づくりができる学校文化の創出」において、できなかった取り組みがピアメディエーション。人間関係のスキル・コミュニケーション能力は必要である。食堂の多目的化はほぼできている。海外生徒との交流は台湾の高校と交流。もう少しグローバルな活動ができればいいと思っている。子供たちが活動できる場として、吹奏楽部の香里フェス、香里カップも 3 クラブ実施する。

③ 「生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上」では、PT のスクラップ・アンド・ビルドで新たな PT を新設して円滑な組織運営を実施している。

● 質疑応答

校：授業力・学力向上が難しい。アクティブコースもそういった問題からつなげていきたい。

委：私の中学校では学校としてアクティブラーニングに取り組んでおり、わかりやすい授業の取り組みとして、生徒 4 人組で取り組む形をとっている。自分の考えを出せる雰囲気づくり。自分の意見を出す生徒が増えた。

委：アクティブラーニングに関して、自分たちで課題設定して自分たちで取り組む。その結果授業中寝なくなった。

学：本校でもペアワーク、グループ学習が増えてきている。意見を出し合って発表するような授業が徐々に増えてきている。

委：アクティブラーニングは取り入れていき、そして工夫がいる。大学の 2020 年改革が進められている。大学入試に関しては文章表記問題などが増えてくるだろう。

校：来年度、は教員でチームを作りそのチームの中で授業研究や学校視察など、チームとして授業力向上を図ることを考えている。また、自己申告票の中に、必ずアクティブラーニングを入れてもらうようなことも考えている。チームは教科内の学年単位で組むなど様々な組み方が考えられる。

委：新しい大学入試に対して、資格検定などの取り組みも大事になってくる。英検・TOEIC・TOEFL など。

委：本校では新しい大学入試制度に対する組織的な取り組みはやっているのか。

校：組織的なことはできていない。まずは PT を作って対応することになると思う。

委：学習意欲の高い生徒に対してはどうしていくのか。

学：来年度から希望者対象でリクルート社の受験サプを紹介する。それだけでなく教員がチューターとして管理、支援していく。そういったことができないかどうか検討をしている。

委：「悩みの相談できる先生・・・」の努力はどういったことをしているのか。

学：担任の先生は放課後も忙しい状態なのでなかなか難しい状況。保健室に相談する生徒もいる。

校：教育相談体制ということをやっているがなかなかできていない。今の生徒の気質があると思う。

委：自分が高校生の時に先生には相談しなかった。

校：相談する相手として両方（先生・友人）とも数値が低いと危機感があるが、そうではない状況。今後も大切なことなので、生徒に寄り添うことを考えながら改善できるよう取り組んでいく。

委：第一志望の進路実現を掲げているが、進学先として地理的選択範囲が狭くなっているのでは。

学：大学までの通学距離が近い所を選ぶ傾向がある。

学：家庭の経済事情も大きい。交通費のかさむ大学などは敬遠される。

3) 34期生（3年生）進路状況報告

学：指定校が昨年の38名→31名。公募推薦入試の受験者、昨年の658名→562名。AO入試は昨年並み。今年是一般入試にシフトしている傾向。センター出願者も昨年の80名→126名に増加。公募推薦入試の合格者は昨年度より減っているのに対して昨年度の合格者数の148名→156名と増えている。産近龍の合格者、昨年の48名→52名、近大18名→38名と増加。近大が抜けてきている中で増加は頑張っている結果。今年専門学校指定が昨年の5名→12名に増加。背景は指定校の方が入学費用が安くなるということが関係している。あと、国立大推薦で1名合格している。全体的に結果を見ても頑張っている。一般入試まで頑張っている生徒が多い。

4) その他全体を通して

①今年度の報告（分掌・学年・事務）

●質疑応答

委：子どもたちは学校を楽しんでいる。保護者の学校に対する満足度も高い。先生は互見授業の取り組みや目標を持ってやっている。これからも子どもたちのために切磋琢磨して頑張ってもらいたい。

委：学校に子どもたちが誇りを持ってほしい。アンケート結果では下がっているのが上がってほしい。先生の仕事がサービス業化してきているので、先生方が疲れないように無理しないようにしてください。

委：「学校運営に先生方の意見が反映されていない」という数値が低い。先生方の意見がすべて反映されるには限らないが、先生方の意見が反映されるよう頑張ってもらいたい。

4. 校長謝辞